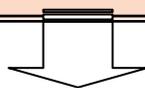


卒業生からの過去の指導の責任追及 ～C高等学校長からの相談～

卒業生の保護者から「3年前の校内のいじめの指導が悪かったために、娘が精神的に病気になった。」という電話が入りました。

当時の学級担任は他校に異動しており、関係している教員も少ない中で、事実関係を確認しようとしているのですが、2～3日おきに、「学校の体制はどうなっているんだ。」とか「どういう責任をとるのか。」などという電話がかかってくるようになりました。

始業前、授業中、放課後など、あらゆる時間帯にかかってくる。一度電話に出ると、一方的に話が続けるので、その対応に数時間かかることもあり、行すべき仕事ができない等大変困っています。



<助言例>

時間が経過しているため、当時の指導が理由で精神的な病気を発症したという因果関係を証明することは難しく、学校でできることは限られていますが、次のように対応してみてもいいでしょうか。

すでに卒業生した生徒であるため、当時の関係者ではなく、副校長が窓口になり、担当者を一人に決めて対応に当たることが大切です。

そして、当時の記録や関係者から事実確認等をした上で、こちらから連絡させていただくということをはっきり伝え、2～3日おきの長時間の電話はお断りしましょう。

また、直接お会いして話を聴くことも重要ですから、約束した日時に来校していただくなどして、相談に乗ることをお勧めします。

この事例の場合は、責任をどう取るかということよりも、現在の保護者が何に困っているのかを把握する中で、より適切な相談機関や医療機関につなげていくことが早期解決の鍵となります。

事例6

卒業生から在校当時の指導についての質問状が出された。

【概要】 卒業生から在校当時の学校の指導について質問状が出された。当時の状況を知る教職員がいない中で、どのように対処したらよいか困っている。

◇卒業生の突然の来校◇

12年前に卒業したというAさんが突然来校し、「近くまで来たので寄った。懐かしい校舎を見学させてもらいたい。」と申し出た。長期休業中のこともあり、時間的に余裕があったので、副校長は進路担当の教員に案内を頼み、校内を一回りしてもらった後、校長室に招き入れ、自らも同席し話を聴いた。

Aさんは、最初は在校当時の学校の様子や担任の話などを思い出話として話していた。進路担当の教員が近況を尋ねるとAさんの表情が暗くなり、Aさんはしばらく黙っていたが、現在失業中であると話し始めた。

◇これまでのAさんの経緯◇

Aさんは専門学校を卒業後、一度就職をした。仕事はきちんとなしていたつもりだったが、職場での人間関係がうまくつくれず、部署を転々とすることが続いた。異動してもやはり人間関係がうまくいかず、欠勤が多くなり、結果として解雇されたという。自分は何も悪いことはしていないのに、周囲が勝手に自分のことを悪く言うのが耐えられなかったと話した。

その後、就職活動を行ったが、書類選考で落とされるばかりで、不安な日々を過ごしている。失業保険がまもなく切れる上に、一人暮らしのため、早く次の仕事を見つけないといけないと思っているとのことだった。

◇Aさんが持参した書類◇

そして、自分が今このような状態になっているのは、在校当時の学校の対応に問題があったからだと言い、読んで文書で回答してほしいと、50項目もの質問を記載した書類を副校長に渡した。

質問の内容は、在校当時のことで、国語科教員が授業中雑談ばかりで、きちんとした内容を指導してくれなかったことや、社会科教員が自分が質問に答えられず困っているのを生徒と一緒に笑ったことや、学習方法や進路について悩みがあり、面談で学級担任に相談したにもかかわらず、真剣に聴いてくれなかったことなどについてのものだった。

◇学校の対応◇

副校長はむげに断るわけにもいかず、一旦書類を預かり、回答するかしないかも含めて検討し、後日返事をすると言明して、その日はAさんに帰ってもらった。

校内で質問の内容を確認したが、当時のことを知っている教職員が誰もいないため分からないことが多かった。ちょうど同窓会があり、進路担当の教員が同年代の参加者にAさんのことをそれとなく尋ねてみたが、誰も覚えている者はいなかった。

校長が、10年ぐらい前に教員として本校に在職していた知り合いの校長がいることを思い出し、事情を話した。その校長からは、Aさんについては記憶がないが、Aさんが挙げた国語科教員や、社会科教員及び学級担任については、生徒からもそれぞれ人気があり、特に指導上の問題はなかったのではないかと言われた。いずれも既に退職しており、連絡先は分からないということであった。

◇回答に苦慮する学校◇

学校としては、卒業生からの申し出であるので丁寧に対応したいが、個々の項目に答えることは難しい状況で、回答のしようがない。どのように対応したらよいか困っている。

◆訴えの裏側にある本当の悩みを推測する◆

大事なことは、Aさんがなぜ12年もたってから母校に意識が向いたかということです。少なくともここに至る背景には、安全だった生活が脅かされるようになった不安・心配・やるせなさや、今の生活がうまくいかなくなった経緯への憤りがあると推測することが大事だと思うのです。

つまり、出された質問に回答しようとするのも誠実でいいのですが、むしろ、この方の過去に向いている視線を、現在や未来に向けて前向きな考え方ができるようにすること、あるいはそれができるような相談所、相談相手などを紹介する方が誠実な対応ではないでしょうか。

もしこの学校が、できる範囲で質問に回答したとしても、Aさんは必ずしも納得するとは限りません。あの学校の対応はいい加減だと吹聴して歩いたり、教育委員会に訴えたりすることもあるかもしれません。そうすると、学校の疲弊感は募るばかりです。

◆学校だけが責任を負う必要はない◆

このような訪問者への対応を恐れる必要はありません。Aさんは学校に在籍した当時のことが今の状況の原因と捉えているようですが、少なくともその後の12年間に、どのようなことがあったかは分かりません。この場合は学校在籍時の出来事と現在の状況との直接の因果関係を調べるのは難しいと思われます。

Aさんがこのまま学校に対して攻撃を続けていても、現在の状況が好転することは考えにくいのですから、むしろこの学校だけに何回も来られるよりも、他の学校や相談機関などにも行って相談をしてもらった方が、本人のためにもいいのではないのでしょうか。

そうして対応してもらっているうちに、Aさんの本当に困っている内面性を受け止めてくれるところにつながるかもしれません。学校だけが責任を負う必要はないのですから、色々なところに相談に行ってもらった方がいいのだという気持ちで対応すればよいのです。

◆質問に正面から答える必要はない◆

過去にさかのぼって50項目もの質問を準備して、母校に来るというAさんのエネルギーにはすごいものがあります。それだけ深刻な状況があるということです。

基本的には、例えば「質問にお答えしたいと思っていろいろあたってみました、当時の先生方との連絡が取れませんでした。事実確認ができず御意向に沿うような回答ができそうもありません。」という内容をベースにした対応をするしかないでしょう。

このような方から相談されると、どうしても聞き手は、相談者の設定した枠組みに引きずられてしまいます。「～はどうですか。」と聞かれると「それは～です。」と応じがちですが、むしろ、「そういうことを聞いてくるAさんの意図は何なのだろう。」という受け止め方をして、こちらから聞き返したり、話を切り返したりすることも効果的です。

◆Aさんの要望の背景を捉える◆

Aさんが要望してくる背景にあるのは、自分がこうなった原因を、変えることのできない過去に求め、学校に要望書を出すことに打ち込むことで、自分のうまくいかない現実から目をそらしているということなのかもしれません。これはまた、現実の社会・大人の代表たる学校に怒りをぶつけている状態とも言えるかもしれません。

人間は、反抗期などの様々なプロセスを経て成長し、子供から大人の一員になり、自立していきます。そのプロセスの中で「人間はみな不完全であり、間違ったこともする。あなたも私もお互いに同じ不完全な人間だがそれでいい。どんなに努力しても限界は存在する。不完全な人間の集まりである社会そのものも不完全で、思いどおりにならないことがある。」ということ学ぶのですが、今まさにそれを体得しているときなのかもしれません。

しかし、このことを一人で体得するのは大変なことです。一緒に共感してくれる相手がいる方が体得しやすいといえます。ですから、最初からAさんの要望に対してできるできないを答えるのではなく、その要望をかなえるための共同作業を通して、うまくいかないという壁と一緒に体験し、挫折しながら体得していくことが必要かもしれません。

◆心の中を受け止め一緒に考える◆

基本姿勢として、Aさんの気持ちを受け止め共感し、要望をかなえるにはどうするか一緒に考えたり調べたりすることが大切です。要望に感じられない場合はその理由を伝える必要がありますが、教員や学校の個人的な意見や判断ではなく、個人情報保護法などの法令、調査の現実的な限界など、非個人的なものを壁とし、自分（教員）が立ちはだかって壁になるのではなく、一緒に壁を感じるすることが大切です。

また、Aさんには、当時どうしてもらえたら、自分（Aさん）はどうなったと思うかと聞いてみてもよいでしょう。例えば、しっかり授業（国語）を受けていたら面接等で表現できると答えるかもしれません。そこから、「では今、どうやったら面接がうまくいくのかを一緒に考えてみましょう。」と提案することもできるでしょう。

少しやり取りをしながら気持ちが通じ合えれば、なぜ国語科教員は雑談をしたのかなど一緒に考えていくと、居眠り対策や場をなごませるためだったのではないかなどということに気付いてもらえるかもしれません。

◆最初から断ることもできる◆

卒業生であっても現在は在籍していないのですから、最初に話を聞いた段階で、質問状に回答する義務はないことなどを伝えて、毅然とした態度で断ることもできるでしょう。この場合、学校の都合を前面に押し出した拒否的な言い方をするのではなく、Aさんの気持ちを考えて丁寧に伝えます。そうすれば「お力になれず申し訳ない。Aさんのお気持ちは分からないわけではないが、（以下理由）」というように、力になりたいがそれができなくて残念であるという態度に自然になるはずです。

また、犯罪性を感じる場合や、対応の途中で態度が豹変したり、要望が過激になったりする場合は、警察等へ通報すべきなのは言うまでもありません。